

地方独立行政法人長野県立病院機構
平成29年度 評価結果（素案）

平成30年 月

長 野 県

長野県は、地方独立行政法人法（平成15年法律第118号）第28条第1項第1号に基づき、次のとおり地方独立行政法人長野県立病院機構（以下「病院機構」という。）の平成29年度における業務の実績に関する評価（以下「年度評価」という。）を行った。

第1 年度評価の概要

1 年度評価の目的

年度評価は、評価対象年度以降における病院機構の業務の質の向上、業務運営の改善及び効率化、透明性の確保に資すること等を目的とする。

2 年度評価に関する基本方針等

年度評価は「地方独立行政法人長野県立病院機構の評価に関する基本方針」（以下、「基本方針」という。）及び「地方独立行政法人長野県立病院機構の各事業年度の業務実績に関する評価実施要領」（以下、「年度評価実施要領」という。）に基づいて行う。

3 年度評価の視点

(1) 平成29年度の年度計画の実施状況に対する評価の視点

年度計画に沿った病院運営が確実に行われ、県民に提供するサービス及び業務の質の向上や、業務運営の改善及び効率化が図られているかどうか検証し、その成果や取組の状況について評価を行う。

(2) 平成28年度評価の「今後に向けた課題」への取組に対する評価の視点

平成28年度評価で指摘した課題を克服するため、具体的な取組が行われ、確実に改善されているか、あるいは改善の見込みがあるかどうか検証し、課題への対応状況について評価を行う。

(3) 中期目標の期間（平成27～31年度）の進捗状況に対する評価の視点

平成29年度における取組が、中期計画の着実な達成のために十分なレベルに達しているかどうか検証し、中長期的な視点から評価を行う。

4 地方独立行政法人長野県立病院機構評価委員会の意見聴取

年度評価を行うにあたり、地方独立行政法人長野県立病院機構評価委員会条例第2条第2号及び年度評価実施要領4(1)アに基づき、地方独立行政法人長野県立病院機構評価委員会（以下、「委員会」という。）を7月17日、8月9日、9月4日に開催し、意見を聴取した。

〔地方独立行政法人長野県立病院機構評価委員会委員名簿〕

氏名	役職等
鮎澤英之	公認会計士、公認不正検査士
小口壽夫	諏訪赤十字病院 名誉院長
○小宮山 淳	松本秀峰中等教育学校校長
関 利恵子	信州大学経法学部 准教授
浜田 淳	岡山大学大学院 医歯薬学総合研究科 教授
宮坂 佐和子	諏訪赤十字病院 副院長兼看護部長
山上 哲生	大日本法令印刷株式会社 代表取締役社長

(50音順、敬称略、○は委員長)

第2 評価結果

1 総合評価

県による評定	B	病院機構による自己評定	B
--------	----------	-------------	----------

[総合評定の評定区分と判断の目安となる業務実績]

- S 全体として中期計画における所期の目標を量的及び質的に上回る顕著な成果が得られていると認められる
- A 全体として中期計画における所期の目標を上回る成果が得られていると認められる
- B 全体として概ね中期計画における所期の目標を達成していると認められる**
- C 全体として中期計画における所期の目標を下回っており、改善を要する
- D 計画における所期の目標を下回っており、抜本的な改善が必要である

第2期中期目標期間の3年目である平成29年度は、中期目標・中期計画の達成に向け、地域医療や高度・専門医療の提供や医療機能の維持・拡充などに積極的に取り組んだことにより、県民に提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項については、中期計画の達成に向けて順調に進んでいることが認められた。

また、厳しい経営状況を踏まえ、経営改善プログラムを作成し、取組を始めたことなど、業務運営の効率化に向けた事項については中期計画の達成に向けて概ね順調に進んでいることが認められた。

財務内容については、平成29年度の決算が病院機構発足以来最大の赤字となった平成28年度からは大幅に改善したものの2期連続となる経常損失を計上したこと、中期計画で定めた数値目標との乖離が大きいため、中期計画の達成のためには改善を要することが認められた。

以上のことを総合的に判断し、全体として概ね中期計画における所期の目標を達成していることが認められたため、総合評定をBとした。

今後も、県立病院機構として県民の命を守る専門的医療や地域を支える政策医療を担う重要な役割を果たし続けていくため、引き続き医療の質の向上を図るとともに経営改善に取り組むことを期待したい。

[大項目の評定一覧]

大項目	県の評定	病院機構自己評定
第1 県民に提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項	A	B
第2 業務運営の改善及び効率化に関する事項	B	B
第3 財務内容の改善に関する事項	C	C

[大項目の評定区分と判断の目安となる業務実績]

- S 中期計画の達成に向けて特筆すべき進行状況にある
- A 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる**
- B 中期計画の達成には概ね順調に進んでいる**
- C 中期計画の達成のためには改善を要する
- D 中期計画の達成のためには抜本的な改善が必要である

〔特に評価する病院等の取組〕

病院等	取組の内容	評価のポイント
信州医療センター	臨床研修医の受入と育成	「研修医2名確保プロジェクトチーム」を組織し、多職種協働による活動の結果、前年度を上回る定員の2名を確保した。
こころの医療センター 駒ヶ根	県内初のDPAT先遣隊登録	厚生労働省からDPAT(災害派遣精神医療チーム)先遣隊を派遣できる病院として、長野県内で初めて登録された。
	連携大学院教育の開始	信州大学との連携大学院教育を開始したことにより、県内の精神科医師の養成に必要な体制を強化した。
阿南病院	無医地区への巡回診療	無医地区へ医師・看護師・薬剤師のチームを派遣し、切れ目なく巡回診療を実施した。また、モバイル端末等を活用した画像診断などの先進的な取組を行った。
木曽病院	地域包括ケア病棟の開設	患者の状態に応じて医療を提供するため、3月に地域包括ケア病棟を開設した。
	災害時の体制強化	木曽地域の災害拠点病院として、またDMAT指定病院として、関係機関と連携して訓練を実施したほか、大規模災害発生時の初動体制や連絡・連携体制の整備を図った。
こども病院	PICUの増床(8→12床)	地域で受入困難な小児重症患者を受入れるPICUを4床増床することにより、小児救命救急の中核病院としての機能を強化した。
信州木曽看護専門学校	国家試験対策と県内の病院への就職サポート	看護師国家試験に2年連続で卒業生全員が合格し、2人が進学、県立病院10名を含む19名が医療機関に就職した。

ア 小項目別の評定と主な取組

小項目	県の 評定	自己 評定
1 医療・介護サービスの提供体制改革を踏まえた地域医療、高度・専門医療の提供		
(1) 地域医療の提供		
ア 地域医療の提供（信州医療センター、阿南病院、木曽病院）	B	B
イ へき地医療の提供（阿南病院、木曽病院）	A	A
ウ 介護老人保健施設の運営	B	B
(2) 地域包括ケアシステムにおける在宅医療の推進	A	A
(3) 高度・専門医療の提供		
ア 感染症医療の提供（信州医療センター）	B	B
イ 精神医療の提供（こころの医療センター駒ヶ根）	B	B
ウ 高度小児医療、周産期医療の提供（こども病院）	A	A
エ がん診療機能の向上（信州医療センター、阿南病院、木曽病院、こども病院）	B	B
(4) 災害医療などの提供	A	A
(5) 医療におけるICT（情報通信技術）化の推進	B	B
2 地域における連携とネットワークの構築による医療機能の向上		
(1) 地域の医療、保健、福祉関係機関などとの連携		
ア 地域の医療機関との連携	B	B
イ 地域の医療機関への支援	A	A
ウ 地域の保健、福祉関係機関などとの連携の推進	B	B
(2) 5病院のネットワークを活用した診療協力体制の充実強化	B	B
3 人材の確保・育成と県内医療水準の向上への貢献		
(1) 医療従事者の確保と育成		
ア 積極的な医療従事者の確保	B	B
イ 研修体制の充実	A	A
ウ 医療技術の向上	B	B
(2) 県内医療に貢献する医師の育成と定着の支援		
ア 信州型総合医の養成	B	B
イ 臨床研修医の受入れと育成	A	A
(3) 信州木曽看護専門学校の運営	A	A
(4) 県内医療水準の向上への貢献		
ア 県内医療従事者を対象とした研修の実施	B	B
イ 医療関係教育機関などへの支援	B	B
(5) 医療に関する研究及び調査の推進		
ア 研究機能の向上	B	B
イ 医療に関する臨床研究への参加	B	B
ウ 地域への情報発信による健康増進への取組	B	B
4 県民の視点に立った安全・安心な医療の提供		
(1) より安全で信頼できる医療の提供		
ア 医療安全対策の推進	B	B
イ 患者中心の医療の実践	B	B
ウ 適切な情報管理	B	B
エ 医療機器の計画的な更新・整備	B	B
(2) 患者サービスの一層の向上		
ア 患者満足度の向上	B	B
イ 患者への診療情報の提供	B	B

〔小項目の評定区分と判断の目安となる業務実績（抜粋）〕

S 年度計画を大幅に上回って達成している

A 年度計画を上回って達成している

B 年度計画を達成している

C 年度計画を下回っており改善を要する

D 年度計画を大幅に下回っており抜本的な改善が必要である

イ 数値目標に対する達成状況

(7) 患者数

入院は信州医療センター、こころの医療センター駒ヶ根で目標を上回った。外来はこども病院で目標を上回った。

区 分		平成29年度 実 績(a)	平成29年度 目標値(b)	対目標比 (a)/(b)
信 州 医 療 セ ン タ ー	入院	90,537人	89,937人	100.7%
	外来	122,540人	131,201人	93.4%
	合計	213,077人	221,138人	96.4%
こころの医療 センター駒ヶ根	入院	37,848人	37,668人	100.5%
	外来	41,024人	45,927人	89.3%
	合計	78,872人	83,595人	94.4%
阿 南 病 院	入院	20,818人	22,000人	94.6%
	外来	48,562人	52,900人	91.8%
	合計	69,380人	74,900人	92.6%
木 曾 病 院	入院	46,554人	51,538人	90.3%
	外来	128,076人	132,873人	96.4%
	合計	174,630人	184,411人	94.7%
こ ども 病 院	入院	53,560人	53,902人	99.4%
	外来	62,842人	61,623人	102.0%
	合計	116,402人	115,525人	100.8%
合 計	入院	249,317人	255,045人	97.8%
	外来	403,044人	424,524人	94.9%
	合計	652,361人	679,569人	96.0%

(イ) 新規患者数等（信州医療センター）

いずれも目標を下回った。

区 分	平成29年度 実 績(a)	平成29年度 目標値(b)	対目標比 (a)/(b)
新 外 来 患 者 数	24,943人	26,500人	94.1%
手 術 件 数 (手 術 室)	1,603件	1,650件	97.2%
内 視 鏡 検 査 件 数	6,439件	8,300件	77.6%
分 娩 件 数	123件	180件	68.3%

(ウ) 在宅医療件数（訪問診療・看護・リハビリ）

信州医療センターで目標を上回った。

区 分	平成29年度 実 績(a)	平成29年度 目標値(b)	対目標比 (a)/(b)
信 州 医 療 セ ン タ ー	7,029件	5,360件	131.1%
阿 南 病 院	2,175件	2,500件	87.0%
木 曾 病 院	4,523件	5,000件	90.5%

(イ) 紹介率及び逆紹介率

紹介率、逆紹介率とも木曾病院、こども病院で目標を上回った。

区 分		平成29年度実績	平成29年度目標値
信 州 医 療 セ ン タ ー	紹介率	59.4%	62.5%
	逆紹介率	15.7%	16.0%
阿 南 病 院	紹介率	18.8%	20.0%
	逆紹介率	14.1%	15.0%
木 曾 病 院	紹介率	24.6%	21.0%
	逆紹介率	17.1%	14.0%
こ だ も 病 院	紹介率	77.0%	65.0%
	逆紹介率	80.7%	40.0%

(オ) 認定資格の取得人数

区 分	平成29年度実績	平成29年度目標値
認 定 看 護 師 資 格	3人	3人

ウ 昨年度指摘された課題への取組

課題	課題への取組と県の評価
<p>患者数は減少傾向であるが、各病院においては、引き続き、患者ニーズの把握に努め、質の高い医療サービスを効果的に提供していただきたい。</p>	<p>【課題への取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 信州医療センター <ul style="list-style-type: none"> ・ 東棟を 7 月に開設し、がん早期発見機能の向上、予防医療の充実等により診療機能の強化・充実を図った ・ 産科の常勤医師を新たに1名確保し、6月から分娩の取扱いを再開し地域の産科医療の充実に貢献した ・ 感染症センターを 10 月に開設し、感染症医療の拠点病院として感染症の専門医療の提供し、地域の感染症対策水準を向上した ・ 地域医療ニーズに対応して嚥下機能評価外来を 7 月に開設し、誤嚥性肺炎のリスクがある患者に対して嚥下評価・介助方法の指導を実施した ○ こころの医療センター駒ヶ根 <ul style="list-style-type: none"> ・ 児童・思春期の患者に対応するデイケアプログラムを提供するため、8月にプロジェクトチームを設置し、プログラム等の検討を開始した ・ また、近隣の医療機関等の連携を強化し、紹介や逆紹介により、患者により適切な医療サービスを提供できる体制づくりを進めた ○ 阿南病院 <ul style="list-style-type: none"> ・ 内科、整形外科及び眼科の診療体制の充実により住民のニーズに応える地域医療を推進し、引き続き、急性期から回復期、慢性期に至るまで幅広く患者層を受入れ、救急、訪問、へき地診療、施設の後方支援等を担った ・ また、眼科では、前年度に導入したOCT(光干渉断層計)を用いて、加齢とともに多くなる網膜系の眼疾患の早期発見、治療にあたる等医療サービスを提供した ○ 木曾病院 <ul style="list-style-type: none"> ・ 木曾地域の高齢化の進展に対応した効果的な医療を提供するため、病棟を再編して地域包括ケア病棟を開設し、患者の状態に応じて急性期、回復期、慢性期の医療を提供できる体制を整えた ・ 今後も地域の関係機関との連携を強化し、地域のニーズに応えた体制作りを進めていくことを進めていきたい ○ こども病院 <ul style="list-style-type: none"> ・ 精神科常勤医師を配置し、産科患者のメンタルヘルスケアを開始した <p>【県の評価】 各病院において、質の高い医療を提供するための取組を積極的に行ったことが認められた。</p>

<p>在宅医療は今後ますます重要になることから、訪問看護や訪問診療などの取組を拡充し、患者が住み慣れた地域で必要な医療が受けられるよう、引き続き、取り組んでいただきたい。</p>	<p>【課題への取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 信州医療センター <ul style="list-style-type: none"> ・ 地域の高齢者のニーズに対応するため、医療依存度の高い療養者を対象とした訪問看護の365日提供を継続し、訪問リハビリテーションを充実させ、利用者及び件数増加を検討 ・ また、在宅における理学療法、作業療法を継続するとともに、誤嚥性肺炎の危険性が高い患者に対し、食事時の姿勢調整や適した食事形態を家人に指導する為、在宅患者に対する言語聴覚療法を新たに開始した ○ こころの医療センター駒ヶ根 <ul style="list-style-type: none"> ・ 精神保健福祉士、薬剤師、栄養士などニーズに応じて多職種での訪問看護を行い、専門職種によるアセスメントを実施した ・ 特に退院患者に対しては、精神保健福祉士との訪問回数を増やし、安心安全な地域生活移行への支援に努めた ・ 治療中断者に対しては、外来において関係機関との情報共有に努め、治療再開への機会をとらえる対応を行った ・ 職員が作業所及びグループホーム等の関係者との支援会議に参加し、医療者としての支援方法の提案や地域との連携強化を行い、患者が住み慣れた地域でスムーズな生活ができるよう支援を行った ○ 阿南病院 <ul style="list-style-type: none"> ・ 訪問看護ステーション「さくら」の運営について、県看護協会と下伊那南部保健医療協議会で検討を重ねてきたが、29年度から南部5町村で構成する下伊那南部総合事務組合が運営することとなり、病院との連携・協力体制について協議を行った ○ 木曽病院 <ul style="list-style-type: none"> ・ 地域の高齢化及び在宅でのターミナルケア等の患者ニーズに対応するため、24時間365日訪問体制の維持等在宅医療を積極的に展開し、地域医療に貢献した ○ こども病院 <ul style="list-style-type: none"> ・ しろくまネットワークを拡充し、患者やその家族が安心して在宅療養ができるように努めた <p>【県の評価】</p> <p>各病院において、患者が住み慣れた地域で必要な医療が受けられるよう、訪問診療・訪問看護などの取組を維持・拡充したことが認められた。</p>
---	--

<p>○ 信州医療センター 近隣の総合病院との連携を図り、病院に求められている医療を見極めるとともに、採算部門と不採算部門を明確にしていきたい。</p>	<p>【課題への取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 近隣の急性期病院との連携のほか、慢性期対応病院、介護施設及び訪問看護ステーションとの連携を図り、地域包括ケアシステムの中核的役割を果たしている ・ 長野医療圏において急性期病院が多く存在する中、当院は、一般急性期医療を主軸に回復機能、地域包括ケア病棟も保有することで、求められる役割を果たしていきたいと考えている ・ 感染症センターを活用した長野県内の感染症対策の中核病院としての位置づけを図っていくことを検討している ・ 採算部門と不採算部門の明確化に関しては、病院として部門別収支分析は行っていない現状だが、診療科別の患者数及び収益の状況、月次損益状況と経営分析結果(前年対比と変動要因分析)を毎月の運営会議で共有し、収益確保と費用削減の方策について検討している ・ 人件費比率低減の取組として、外来診療科別の収益と非常勤医師の派遣費用から採算性を考慮し、収益の少ない診療科の派遣医師の減員、収益の多い診療科の拡充を行った <p>【県の評価】 近隣の医療機関と連携を図り、地域包括ケアシステムの中核的な役割を果たしていることが認められた。今後は、採算部門・不採算部門の明確化についての取り組みに期待したい。</p>
<p>○ 信州医療センター 分娩業務の再開に向けた医師の確保や関係機関との連携の取組については、評価したい。今後は、積極的に地域ニーズの把握に努め、分娩件数の目標を達成するとともに、県民が安心して出産できる病院として、産後のケアを含めた医療を提供していきたい。</p>	<p>【課題への取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 産科常勤医師の確保により、4月から妊婦健診の再開、6月から分娩の取扱いを再開することができたが、29年度目標の分娩件数180件に対して実績数123件と下回った ・ 今後の受入数増加に向けて、産科病棟の一部個室化などアメニティの向上を図るため、病棟編成プロジェクト会議による検討を開始した ・ 出産後の育児や体の回復に不安を抱える母子に育児指導やケアを提供することで、地域で安心して子育てできる環境づくりのため、産後ケア事業を維持継続し、平成29年3月から新たに新生児訪問も開始(宿泊型10名、デイサービス型19名、新生児訪問13名)須高地域の行政(須坂市、高山村、小布施町)とも積極的に連携を図り、院長により各地域の保健補導員会で当院の産科医療体制について講演を行ったほか、須坂市報での産科医療に関する特集記事の掲載などにより地域への周知に努めた <p>※ 安心して出産していただける環境整備のため、平成30年4月に産科の常勤医師(女性)を1名増員するほか、産科医師の負担軽減と地域の分娩体制の維持を目的とした院内助産の実施に向けて、助産師を「信州大学院内助産リーダー養成コース」研修に派遣し、体制の整備を図る</p> <p>【県の評価】 産科常勤医を確保し、分娩の取扱いを再開したこと、受入数の増加に向けた積極的な取組については評価したい。</p>

<p>○ 木曾病院 木曾地域唯一の病院として、地域の医療需要に応じた医療サービスを提供していることは評価したい。こうした中、入院患者数が著しく減少していることから、患者サービスの向上により患者満足度を維持しつつ、地域住民をはじめ、関係機関との連携を図り、地域から、より一層信頼される病院を目指していただきたい。</p>	<p>【課題への取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 木曾地域の高齢化の進展に対応した効果的な医療を提供するため、病棟を再編して地域包括ケア病棟を開設し、患者の状態に応じて急性期、回復期、慢性期の医療を提供できる体制を整えた ・ 平成30年4月から患者サポートセンターを設置するなど地域の関係機関との連携を強化し、地域のニーズに応えた体制作りを進めるとともに、患者サービスの一層の向上に努めることで、より信頼される病院を目指していきたい <p>【県の評価】 患者の状態に応じて急性期、回復期、慢性期の医療を提供するため、病棟を再編して地域包括ケア病棟を開設したことを評価したい</p>
<p>○ こども病院 他の医療機関では治療が困難な患者を積極的に受け入れており、周産期医療機関としての役割を果たしていることは評価したい。PICUの増床と併せて、引き続き、効率的な運用に向けて取り組んでいただきたい。</p>	<p>【課題への取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 診療報酬改定によるPICUの算定要件拡大や地域医療支援病院認定など新たなプラス面を活かしながら、効率的な運用に取り組んでいく <p>【県の評価】 PICUの増床と併せ、効率的な運用についても取り組んでいることが認められた</p>
<p>○ 信州木曾看護専門学校 高等学校への訪問などにより、引き続き、学生の確保に取り組んでいただきたい。</p>	<p>【課題への取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 県内、県外の58校の高校訪問を行い、ガイダンスや模擬授業は11回(28年度の倍以上)実施した ・ ブログは39回更新し学校生活を随時発信 ・ その結果、受験希望者は28年度より8名多い68名となった <p>【県の評価】 引き続き、高等学校への訪問などにより、積極的な学生確保に取り組んでいることが認められた。</p>
<p>○ 信州木曾看護専門学校 キャリア育成や就職活動支援などのサポートを継続していただくとともに、学生が自ら、就職先として県内医療機関を選択するよう、実習受入れ体制や看護の質に着目し、実習病院との連携を強化していただきたい。</p>	<p>【課題への取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 2年次の3月にハローワーク職員による「就職セミナー」を開催し、就職への意識付けを行ったほか、県内で開催される就職ガイダンスへの参加を促し、実習受け入れ病院とは、密に連携をとり(年2回の臨床指導者会議、実習前後の担当教員との打ち合わせ)受入体制を整えた ・ 長野県看護協会主催の臨床指導者養成研修の受講や、長野県看護教育研究会主催の研修会への参加を促し実習体制の向上を依頼 ・ 実習受け入れ病院へ8名、その他、県内病院へは15名が就職 <p>【県の評価】 県内医療機関に看護人材を輩出するため、積極的に取り組んでいることが認められた。</p>

エ 今後に向けた課題

- 各病院においては、引き続き、患者ニーズと患者動向の把握に努め、質の高い医療サービスを効果的に提供していただきたい。
- 今後も地域に必要な医療を提供していくため、県や関係機関と連携しながら、経営状況等を勘案の上、必要な人材の確保に努めていただきたい。
- 信州医療センターにおいて、産科の常勤医師を確保し、分娩業務を再開したことは評価したい。今後も積極的な広報PR活動を進め、須高地域の産科医療機関としての役割を果たしてもらいたい。
- 阿南病院において、訪問診療や訪問看護については、関係機関と調整のうえ、引き続き地域のニーズに合わせて提供してもらいたい。
- 信州木曾看護専門学校において、県内の学生に対し、学校の強みを広報することで、引き続き学生を確保してもらいたい。

(7) 医療材料費／医業収益比率

信州医療センター、阿南病院で目標を達成した。

区 分	平成29年度 実 績(a)	平成29年度 目標値(b)	対目標 (a)-(b)
信州医療センター	23.9%	24.0%	▲0.1ポイント
こころの医療 センター駒ヶ根	5.9%	5.3%	0.6ポイント
阿 南 病 院	15.3%	17.7%	▲2.4ポイント
木 曾 病 院	23.9%	23.3%	0.6ポイント
こ ども 病 院	20.6%	20.0%	0.6ポイント

(イ) ジェネリック医薬品使用率

4病院とも目標を上回った。

区 分	平成29年度 実 績(a)	平成29年度 目標値(b)	対目標 (a)-(b)
信州医療センター	86.8%	80.0%	6.8ポイント
阿 南 病 院	78.4%	70.0%	8.4ポイント
木 曾 病 院	80.7%	70.0%	10.7ポイント
こ ども 病 院	87.0%	80.0%	7.0ポイント

(ウ) 病床利用率

全病院で目標を下回った。

区 分	平成29年度 実 績(a)	平成29年度 目標値(b)	対目標 (a)-(b)
信州医療センター	79.3%	81.5%	▲2.2ポイント
こころの医療 センター駒ヶ根	79.2%	80.0%	▲0.8ポイント
阿 南 病 院	63.7%	67.7%	▲4.0ポイント
木 曾 病 院	64.3%	72.3%	▲8.0ポイント
こ ども 病 院	74.5%	75.8%	▲1.3ポイント

- ・ 信州医療センターは結核、感染症及び地域包括ケア病床を除く運用病床（226床）に基づき算出
- ・ こころの医療センター駒ヶ根は許可病床（129床）に基づき算出
- ・ 阿南病院は許可病床（85床）に基づき算出
- ・ 木曾病院は運用病床（4月から2月まで186床、3月は181床）に基づき算出
- ・ こども病院は運用病床（180床）に基づき算出

エ 昨年度指摘された課題への取組

課題	課題への取組と県の評価
<p>地域連携の強化・充実により、紹介患者など新規患者数の増加に積極的に取り組むとともに、病床を効率的に運用するための病院内の連携調整を強化し、病床利用率の上昇を図っていただきたい。</p>	<p>【課題への取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 信州医療センター <ul style="list-style-type: none"> ・ 院長による地域の診療所等への訪問活動(67ヶ所)を積極的に行った ・ 介護施設や行政との定例会議や研修会を開催して地域ニーズに対する意見・情報交換を行ったほか、須高医師会、須高歯科医師会、須高薬剤師会等と「須高地区手をつなごう会」を組織し地域連携の強化に努めた ・ 多職種で構成された「拡大ベッドコントロール会議」による戦略的な病床管理によって病床利用率の向上を図り、10月以降は高稼働を維持した ○ こころの医療センター駒ヶ根 <ul style="list-style-type: none"> ・ 医療機関及び退院後の受け入れ先との連携を図るため、病院や地域の診療所及び退院後に入居する福祉施設等への訪問を行った ・ 毎朝実施している「ベッドコントロール会議」で入院患者の情報共有や保護室及び観察室の空床状況を確認し、救急患者のための病床確保を図りながら、効率的な病床利用に努めた結果、病床稼働率80%を達成した ○ 阿南病院 <ul style="list-style-type: none"> ・ 人口減が進む当圏域の阿南病院の役割を明確化し、地域医療を推進する病棟の方向性について、病棟再編ワーキンググループを4回開催して論点を整理し、検証を行った ・ この結果を踏まえ、平成30度診療報酬改定の状況から、当院の病棟再編について適正な病床規模や地域包括ケア病床等の運営の必要性などの方向性を決めて行く ○ 木曽病院 <ul style="list-style-type: none"> ・ 地区の健康講演会での講演や一般公開講座の開催などで病院をPRした ・ 郡内の福祉施設や診療所を院長が訪問し、意見・情報交換を行い、連携強化に努めた ○ こども病院 <ul style="list-style-type: none"> ・ 地域連携を強化し、紹介患者数の増加につなげるため、安曇野赤十字病院と連携協定を結び、成人の放射線治療外来を開始した ・ 不足していたPICU病床を増床し効率的な運用に努めた <p>【県の評価】 各病院において、病床利用率の向上に向けた、様々な取組がなされたことが認められた。</p>

<p>職員の勤務意欲等の一層の向上を図るため、医療組織にふさわしい人事評価制度を構築し、法人の業績、職員の業績や能力を評価して給与へ反映させていきたい。また、診療報酬改定の状況や患者のニーズ、診療・業務処理体制の充実に伴う費用対効果を踏まえ、効果的かつ適正な職員配置を行い、給与費比率の低減に取り組んでいただきたい。</p>	<p>【取組の内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 信州医療センター <ul style="list-style-type: none"> ・ 人件費比率低減プロジェクトチームを立ち上げ、全部門を対象に人員数及び配置場所の適正化の検討を行い、退職者不補充やパート職員の削減等により人件費比率低減に努めた ・ 育児短時間勤務者の勤務形態に応じた適切な配置と活用について、部門横断的な検討を実施した ○ こころの医療センター駒ヶ根 <ul style="list-style-type: none"> ・ 平成27年度から当院独自の取組として、「事務職員スキルシート」を作成し、事務処理能力の自己評価を行うことにより、職員の資質向上に努めた ・ 医療技術者の業務軽減のためクラークの採用、新たな算定のため医療技術者の増員を行う等、適切な職員配置を行った ○ 阿南病院 <ul style="list-style-type: none"> ・ 地域の実情に見合った診療体制の検討を踏まえ、効率的な職員配置を検討していく ○ 木曽病院 <ul style="list-style-type: none"> ・ 患者数の減少に見合った職員数について検討を行い、平成30年度から実行する ○ こども病院 <ul style="list-style-type: none"> ・ 少子化の影響により、外部環境が変化していることから、今後の方向性を考える上で、設備や職員配置についての検討が必要と考えている ○ 本部事務局人事課 <ul style="list-style-type: none"> ・ 人事評価制度については、魅力再発見・組織発展プロジェクトを委託した機関とも検討を行ったが、現段階で具体の取組までには至っていない ・ 職員配置に関しては、非正規職員も含めて必要な見直しや重点配置を行ったほか、事務職については新たに正規職員に準じた無期雇用の専門スタッフ制度を4月から新設し、必要な人材の確保を図った ・ なお、常勤職員数は全体で対前年で△32名の1,423名としている <p>【県の評価】 職員配置について検討を進め、一部の取組を具現化したことが認められた。</p>
--	---

<p>平成30年度の診療報酬・介護報酬の同時改定について、医療の質の向上と経営効率化の両面の観点から研究・分析が必要である。については、診療報酬等の改定動向に一層注意を払い、速やかに実行できる体制を整えとともに、診療報酬等の増減があっても経営が大きく左右されないよう取り組んでいただきたい。</p>	<p>【取組の内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 信州医療センター <ul style="list-style-type: none"> ・ 診療報酬の改定動向に対して、経営企画室会議を中心に当院への影響(病棟群単位の経過措置終了への対応、新規の施設基準取得、DPC係数変更等)を分析し、対応策の検討と各部門や委員会等への情報提供を行った ○ こころの医療センター駒ヶ根 <ul style="list-style-type: none"> ・ 診療報酬改定に対応するため、診療報酬検討対策コアチームを組織し、新規項目等の施設基準の取得が可能か、算定が可能かなどの検討や他県の県立精神科病院と情報共有を行った ・ その後、診療報酬検討対策会議を開催し、病院幹部とコアチームで対応を決定した ○ 阿南病院 <ul style="list-style-type: none"> ・ 診療報酬、介護報酬の改定の影響について分析を行い、経営企画会議を中心に各部門への情報提供を行った ・ また、改定による施設基準の届け出を行うとともにDPCデータ提出加算届出のための準備を行った ○ 木曽病院 <ul style="list-style-type: none"> ・ 全自病医療の評価公表事業に参加し、指標の作成を開始した ・ DPC分析ソフトの導入を決定した ・ 病棟再編を行い、地域包括ケア病棟を開設するとともに効率的なベッドコントロールに取り組み、併せて許可病床数を見直した(259床→239床) ・ 介護医療院の開設に向けた具体的な検討を開始する予定 ○ こども病院 <ul style="list-style-type: none"> ・ 新規項目の施設基準取得 ・ 地域医療支援病院認定による係数確保診療報酬請求のための院内調整 ○ 本部事務局経営管理課 <ul style="list-style-type: none"> ・ 早い段階から「医業収益確保のための担当者会議」を開催し、診療報酬改定の情報を共有するとともに、各病院における取組を検討した ・ 理事会においても新たな診療報酬体系に向けた意見交換を実施した <p>【県の評価】</p> <p>機構全体として、平成30年度の診療報酬・介護報酬の改訂に対し、速やかに実行できるような体制を整え、木曽病院を始めとして実際に取組を実行に移したことが認められた。</p>
---	---

<p>厚生労働省で検討が進められている「医師の働き方改革」の動向を注視しながら、必要に応じて人事・給与制度の見直しを行うなど柔軟な対応をしていただきたい。</p>	<p>【取組の内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 本部事務局人事課 <ul style="list-style-type: none"> ・ 医師の働き方改革については、H29.12.2に院長・五病院医師会合同会議を開催し、医師の勤務の現状や働き方改革について議論している ・ 今後は厚生労働省等の動向を注視しつつも、超過勤務の縮減や医師事務作業補助者の活用、多職種へのタスク・シフティングなど実行可能なものから取り組むとともに、医師にとって働きがいと魅力ある給与制度のあり方についても検討を進める <p>【県の評価】</p> <p>医師の働き方について、本部事務局を中心に議論がなされ、給与制度とともに検討が進められたことが認められた。</p>
<p>阿南病院では入院患者、こども病院では外来患者がそれぞれ増加しているが、全体的には患者数が減少傾向であることから、各病院においては、患者動向などの現状分析を行い、減少の原因や今後の見通しについて検証を行っていただき、その結果を踏まえた病棟再編や人員配置を検討していただきたい。</p>	<p>【取組の内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 信州医療センター <ul style="list-style-type: none"> ・ 経営企画室会議で患者動向の分析及び対策を検討し、運営会議等での情報共有を踏まえ、近隣の医療機関を訪問しPRするなど各部署で適切な対応を行った ・ 地域包括ケアシステムの中で「在宅医療安心ネット」の後方支援病院としての機能を果たしている地域包括ケア病棟において、冬季入院患者の増加に対応するため、次年度に増床(3床)を行うほか、産科医療ニーズに応えるため、病床利用率や看護体制を考慮しつつ産科病棟を一部個室化しアメニティ向上を図る予定である ○ こころの医療センター駒ヶ根 <ul style="list-style-type: none"> ・ 毎月開催している病院運営会議において、入院患者及び外来患者数の分析報告を行っている ・ 平成27年度から、デイケアの基準変更により外来患者数が減少しているため、近隣の医療機関等を訪問し、利用者の紹介依頼を行った ・ 利用者のニーズに対応するデイケアプログラムを提供するため、プログラム内容や開催頻度を見直すとともに、新たに児童・思春期プログラムの検討を開始した ○ 阿南病院 <ul style="list-style-type: none"> ・ 公立病院改革ガイドラインに示された病床利用率の達成と、地域医療構想の二次医療圏の必要病床数を見据え、人口減が進む当圏域の阿南病院の役割を明確化し、地域医療を推進する病棟の方向性について、病棟再編ワーキンググループを4回開催して論点を整理し、検証を行った ・ この結果を踏まえ、平成30年度診療報酬改定の状況から、当院の病棟再編について適正な病床規模や地域包括ケア病床等の運営の必要性などの方向性を決めて行く

	<p>○ 木曾病院</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 木曾地域の高齢化の進展に対応した効果的な医療を提供するため、病棟を再編して地域包括ケア病棟を開設し、患者の状態に応じて急性期、回復期、慢性期の医療を提供できる体制を整えた <p>○ こども病院</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 少子化の進行に伴い、長期的には入院患者数の減少は避けられないため、これに向けた病棟再編を検討していく ・ 一方で、当院の特色・強みをさらに強化することにより、他県や海外からのこうした分野への患者増加を図っていききたい <p>【県の評価】 各病院において、患者動向などを踏まえ、利用者のニーズに対応する新たな取組や適正な病床規模について一定の検討がなされたことは評価したい。今後は、より一層これらの検討を進めるとともに具現化に向けた準備を進めてもらいたい。</p>
<p>○ 信州医療センター</p> <p>病棟構成が一般病棟(看護基準7対1と10対1)・地域包括ケア病棟・結核病棟と混在していることから、病棟ごとの採算性を検証する仕組みを作っていたいただきたい。</p>	<p>【取組の内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 診療報酬改定に伴う病棟群単位の経過措置終了や入院基本料の変更に対応するため、病棟種別ごとに施設基準を満たすためのシミュレーション(看護必要度、在宅復帰率等)を行い、収益確保のため病院として最適な対応策について検討した。 ・ 施設基準上及び病棟夜勤に必要な看護職員数について検証を行ったが、適正な職員配置数の見直しについては、育児短時間勤務者の勤務形態に応じた適切な配置と活用を含め、継続して検討していく ・ 平成30年度は、地域包括ケア病棟の3床増床と南3階病棟の一部個室化を実施する予定だが、改修後は費用対効果を検証していく <p>【県の評価】 病棟種別ごとに収益確保のために最適な対応策について検討したことが認められた。</p>
<p>○ こころの医療センター駒ヶ根</p> <p>県内の精神科医療の中核を担い、精神科専門医療の提供や人材育成の取組については、評価したい。こうした中、平均在院日数の短縮に伴い、病床利用率が下がったことから、目標として掲げた「チャレンジ80」の確実な達成に向けて取組を一層充実していただきたい。</p>	<p>【取組の内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 病床稼働率80%の達成に伴い、延入院患者数が昨年度に比べ増加(1,417人増)したが、平均在院日数は67.6日(昨年度65.7日)と短い日数を維持できている ・ 退院後3ヵ月以内の再入院率を低下させる取組を行った結果、入院1人当たり診療単価が昨年度に比べ310円増加した(29年度 27,120円、28年度 26,810円) <p>【県の評価】 平均在院日数の更なる短縮と併せて、「チャレンジ80」のうち、病床稼働率80%を達成したことが認められた。</p>

<p>○ 阿南病院 入院患者数、外来患者数ともに、年度計画数を上回ったことは評価したいが、依然、病床利用率は60%を割っている。こうした中、病棟再編など改善策の検討を進めているが、その検討した内容の具現化により、病床利用率の更なる向上を図っていただきたい。</p>	<p>【取組の内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 診療体制の充実により延入院患者数が昨年度に比べ増加(1,553人増)したことにより、病床利用率は63.7%となり、昨年度に比べ5.0%上回った ・ 公立病院改革ガイドラインに示された病床利用率の達成と、地域医療構想の二次医療圏の必要病床数を見据え、人口減が進む当圏域の阿南病院の役割を明確化し、地域医療を推進する病棟の方向性について、病棟再編ワーキンググループを4回開催して論点を整理し、検証を行った ・ この結果を踏まえ、平成30度診療報酬改定の状況から、当院の病棟再編について適正な病床規模や地域包括ケア病床等の運営の必要性などの方向性を決めて行く <p>【県の評価】 診療体制の充実により病床利用率が向上したこと、病棟再編ワーキンググループを開催して病棟再編の方向性を検討していることが認められた。</p>
--	---

オ 今後に向けた課題

- 病床利用率の向上に向け、各病院において短期的な取組を進めるとともに、中長期的な視点による病棟再編の検討について速やかに着手するとともに、具体的な検討スケジュールを示してもらいたい。
- 医療組織にふさわしい人事評価制度を構築し、法人の業績、職員の業績や能力を評価して給与へ反映させていきたい。
- 厚生労働省で検討が進められている「医師の働き方改革」については、今後も引き続き注視していただき、必要に応じて人事・給与制度の見直しを行うなど柔軟な対応をしていただきたい。
- 信州医療センターにおいて、内視鏡センターを増床し、機能拡充を図ったところだが、内視鏡検査件数については目標と大きな乖離が生じている。収益に見合う投資という観点で課題を分析するとともに、件数増の取組を一層進めてもらいたい。
- 木曽病院において、入院患者数が平成22年度から減少を続けていること、さらに病床利用率が前年度から大幅に減少したことから、患者サービスの一層の向上を図るとともに、地域に必要な医療を持続的かつ効率的に提供できるよう、今後の患者動向を分析した上で、分析に基づいた具体的な措置を検討してもらいたい。

イ 数値目標に対する達成状況

(ア) 損益の状況（病院機構全体）

（単位：千円）

科 目	平成29年度 決算	平成28年度 決算	平成29年度 計画	増減 (29-28)	増減 (決算-計画)
経常収益（ア）	23,200,791	23,094,513	23,539,872	106,279	▲ 339,081
医業収益	16,814,272	16,846,188	17,173,150	104,133	▲ 358,878
うち入院収益	12,063,886	12,004,971	12,470,003	58,916	▲ 406,117
うち外来収益	4,311,713	4,275,781	4,253,365	35,934	58,348
介護老人保健施設収益	375,370	370,828	385,674	4,542	▲ 10,304
看護師養成所収益	18,970	19,744	19,649	▲ 774	▲ 679
運営費負担金収益	5,480,000	5,480,000	5,480,000	0	0
その他経常収益	512,179	513,800	481,399	▲ 1,621	30,780
経常費用（イ）	23,324,292	23,358,311	23,508,257	▲ 34,019	▲ 183,965
医業費用	21,374,907	21,354,723	21,491,610	20,185	▲ 116,703
うち給与費	12,336,320	12,332,963	12,424,135	3,357	▲ 87,815
うち材料費	3,688,267	3,748,535	3,669,973	▲ 60,268	18,294
うち減価償却費	2,173,860	2,256,074	2,218,419	▲ 82,213	▲ 44,559
うち経費	3,112,123	2,926,182	3,085,603	185,942	26,520
介護老人保健施設費用	423,576	442,312	449,281	▲ 18,735	▲ 25,705
看護師養成所費用	159,185	156,766	161,082	2,419	▲ 1,897
一般管理費	355,327	355,968	375,289	▲ 642	▲ 19,962
財務費用（支払利息）	449,510	492,105	454,156	▲ 42,595	▲ 4,646
その他経常費用	561,785	556,437	576,839	5,349	▲ 15,054
経常損益（ア-イ）	▲ 123,501	▲ 263,799	31,615	140,298	▲ 155,116
臨時損益（ウ）	▲ 6,958	0	0	▲ 6,958	▲ 6,958
当期純損益（ア-イ+ウ）	▲ 130,458	▲ 263,799	31,615	133,340	▲ 162,073

※端数処理のため、内訳と合計が一致しない箇所がある。

(イ) 損益の状況 (病院等別：前年度実績との比較)

(単位：千円)

科目	区分	信州	駒ヶ根	阿南	木曾	こども	老健	看護師養成所	本部	計
経常収益	H29	6,568,626	2,000,712	1,851,682	4,193,105	7,933,486	485,938	133,621	33,621	23,200,791
	H28	6,465,556	1,934,035	1,783,313	4,437,821	7,826,665	479,626	132,087	35,410	23,094,513
	差引	103,070	66,677	68,369	▲ 244,716	106,821	6,312	1,534	▲ 1,789	106,278
経常費用	H29	6,670,987	1,975,527	1,643,957	4,254,060	7,796,334	463,522	160,459	359,446	23,324,292
	H28	6,458,408	1,975,141	1,623,228	4,476,410	7,820,282	485,824	158,118	360,900	23,358,311
	差引	212,579	386	20,729	▲ 222,350	▲ 23,948	▲ 22,302	2,341	▲ 1,454	▲ 34,019
経常損益	H29	▲ 102,361	25,185	207,725	▲ 60,955	137,152	22,416	▲ 26,838	▲ 325,826	▲ 123,501
	H28	7,148	▲ 41,106	160,086	▲ 38,590	6,382	▲ 6,196	▲ 26,031	▲ 325,492	▲ 263,799
	差引	▲ 109,509	66,291	47,639	▲ 22,365	130,770	28,612	▲ 807	▲ 334	140,298
純損益	H29	▲ 109,319	25,185	207,725	▲ 60,955	137,152	22,416	▲ 26,838	▲ 325,826	▲ 130,458
	H28	7,148	▲ 41,106	160,086	▲ 38,590	6,382	▲ 6,196	▲ 26,031	▲ 325,492	▲ 263,799
	差引	▲ 116,467	66,291	47,639	▲ 22,365	130,770	28,612	▲ 807	▲ 334	133,341

※端数処理のため、内訳と合計が一致しない箇所がある。

(ウ) 損益の状況 (病院等別：年度計画との比較)

(単位：千円)

科目	区分	信州	駒ヶ根	阿南	木曾	こども	老健	看護師養成所	本部	計
経常収益	H29 (決算)	6,568,626	2,000,712	1,851,682	4,193,105	7,933,486	485,938	133,621	33,621	23,200,791
	H29 (計画)	6,634,314	2,077,219	1,919,974	4,381,071	7,915,514	493,062	134,263	32,681	23,588,098
	差引	▲ 65,688	▲ 76,507	▲ 68,292	▲ 187,966	17,972	▲ 7,124	▲ 642	940	▲ 387,307
経常費用	H29 (決算)	6,670,987	1,975,527	1,643,957	4,254,060	7,796,334	463,522	160,459	359,446	23,324,292
	H29 (計画)	6,499,262	2,055,499	1,746,712	4,371,317	7,841,993	489,957	162,731	389,013	23,556,484
	差引	171,725	▲ 79,972	▲ 102,755	▲ 117,257	▲ 45,659	▲ 26,435	▲ 2,272	▲ 29,567	▲ 232,192
経常損益	H29 (決算)	▲ 102,361	25,185	207,725	▲ 60,955	137,152	22,416	▲ 26,838	▲ 325,826	▲ 123,501
	H29 (計画)	135,052	21,720	173,262	9,754	73,521	3,105	▲ 28,468	▲ 356,332	31,615
	差引	▲ 237,413	3,465	34,463	▲ 70,709	63,631	19,311	1,630	30,506	▲ 155,116
純損益	H29 (決算)	▲ 109,319	25,185	207,725	▲ 60,955	137,152	22,416	▲ 26,838	▲ 325,826	▲ 130,458
	H29 (計画)	135,052	21,720	173,262	9,754	73,521	3,105	▲ 28,468	▲ 356,332	31,615
	差引	▲ 244,371	3,465	34,463	▲ 70,709	63,631	19,311	1,630	30,506	▲ 162,073

※端数処理のため、内訳と合計が一致しない箇所がある。

(イ) 資金収支の状況 (病院機構全体)

(単位：円)

区 分	平成29年度 実績(a)	平成29年度 予算額(b)	差額 (a)-(b)
収入			
営業収益	22,532,879,171	22,882,813,000	▲ 349,933,829
営業外収益	626,562,449	626,948,000	▲ 385,551
資本収入	1,268,147,671	1,540,537,000	▲ 272,389,329
臨時利益	0	0	0
計 (ア)	24,427,589,291	25,050,298,000	▲ 622,708,709
支出			
営業費用	20,573,499,739	20,812,507,000	▲ 239,007,261
営業外費用	481,760,456	489,138,000	▲ 7,377,544
資本支出	3,718,256,132	3,999,512,000	▲ 281,255,868
臨時損失	0	0	0
計 (イ)	24,773,516,327	25,301,157,000	▲ 527,640,673
単年度資金収支 (ア)-(イ)	▲ 345,927,036	▲ 250,859,000	▲ 95,068,036

(オ) 医業収支の状況 (病院別)

(単位：百万円)

区 分	平成 22 年度	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	
信州医療 センター	収益	5,032	4,900	5,014	5,073	4,839	5,359	5,230	5,444
	費用	5,740	6,016	5,839	5,920	5,867	6,191	6,160	6,369
	差引	▲ 707	▲ 1,117	▲ 824	▲ 847	▲ 1,028	▲ 832	▲ 930	▲ 925
こころの医療 センター駒ヶ根	収益	1,006	1,213	1,267	1,309	1,421	1,287	1,245	1,310
	費用	1,655	1,801	1,867	1,892	1,974	1,869	1,902	1,904
	差引	▲ 649	▲ 588	▲ 600	▲ 583	▲ 553	▲ 582	▲ 657	▲ 594
阿南病院	収益	1,140	1,120	1,027	958	895	871	930	963
	費用	1,612	1,620	1,564	1,643	1,596	1,574	1,566	1,587
	差引	▲ 472	▲ 500	▲ 537	▲ 685	▲ 701	▲ 702	▲ 636	▲ 623
木曾病院	収益	3,514	3,443	3,466	3,564	3,473	3,668	3,397	3,144
	費用	3,939	3,989	4,015	4,038	4,039	4,415	4,271	4,070
	差引	▲ 425	▲ 545	▲ 549	▲ 475	▲ 566	▲ 747	▲ 874	▲ 926
こども病院	収益	4,767	5,108	5,476	5,557	5,830	5,660	5,909	5,953
	費用	6,223	6,557	6,803	7,202	7,186	7,149	7,455	7,445
	差引	▲ 1,456	▲ 1,449	▲ 1,327	▲ 1,645	▲ 1,356	▲ 1,488	▲ 1,547	▲ 1,492
病院計	収益	15,459	15,784	16,250	16,460	16,458	16,846	16,710	16,814
	費用	19,169	19,982	20,088	20,695	20,662	21,197	21,355	21,375
	差引	▲ 3,709	▲ 4,199	▲ 3,838	▲ 4,235	▲ 4,204	▲ 4,351	▲ 4,645	▲ 4,561

※端数処理のため、内訳と合計が一致しない箇所がある。

ウ 病院別の経営指標

(7) 医業収支、医業収益に対する比率の状況

(単位：千円、%)

項目	区分	信州	駒ヶ根	阿南	木曾	こども
医業収益	H29	5,444,197	1,309,912	963,377	3,144,010	5,952,776
	H28	5,230,021	1,244,823	929,738	3,397,034	5,908,524
	増減	214,176	65,089	33,639	▲ 253,024	44,252
医業費用	H29	6,369,096	1,904,179	1,586,829	4,069,786	7,445,016
	H28	6,159,912	1,902,072	1,566,162	4,271,205	7,455,371
	増減	209,184	2,107	20,668	▲ 201,419	▲ 10,355
医業収支 (医業収益－ 医業費用)	H29	▲ 924,899	▲ 594,267	▲ 623,452	▲ 925,776	▲ 1,492,240
	H28	▲ 929,891	▲ 657,249	▲ 636,425	▲ 874,171	▲ 1,546,846
	増減	4,992	62,982	12,973	▲ 51,605	54,606
職員給与費/ 医業収益 比率	H29	65.1	104.3	91.3	71.4	72.2
	H28	66.5	110.4	94.9	68.5	72.3
	増減	▲ 1.4	▲ 6.1	▲ 3.6	2.9	▲ 0.1

- 信州医療センターでは、医業収益、医業費用ともに増加したことにより医業収支は前年度並みとなった。また、医業収益に対する職員給与費の比率が低下した。
- こころの医療センター駒ヶ根では、医業収益が増加したことにより医業収支が改善した。また、医業収益に対する職員給与費の比率が大幅に低下した。
- 阿南病院では、医業費用は増加したが、医業収益の増加が上回ったことにより医業収支が改善した。また、医業収益に対する職員給与費の比率が低下した。
- 木曾病院では、医業費用は減少したが、医業収益の減少が上回ったことにより医業収支が悪化した。また、医業収益に対する職員給与費の比率が上昇した。
- こども病院では、医業収益は増加し、医業費用が減少したことにより、医業収支は改善した。また、医業収益に対する職員給与費の比率が低下した。

(イ) 延患者数、病床利用率、入院・外来収益の状況

(単位：人、%、千円)

項目		区分	信州	駒ヶ根	阿南	木曾	こども
延患者数	入院	H29	90,537	37,848	20,818	46,554	53,560
		H28	86,214	36,431	19,265	50,713	54,060
		増減	4,323	1,417	1,553	▲ 4,159	▲ 500
	外来	H29	122,540	41,024	48,562	128,076	62,842
		H28	121,387	41,095	48,718	131,909	61,138
		増減	1,153	▲ 71	▲ 156	▲ 3,833	1,704
病床利用率	H29	79.3	79.2	63.7	64.3	74.5	
	H28	76.0	77.4	58.7	70.7	76.0	
	増減	3.3	1.8	5.0	▲ 6.4	▲ 1.5	
入院収益	H29	3,693,806	1,026,447	573,920	1,647,929	5,121,784	
	H28	3,609,602	977,127	534,294	1,763,322	5,120,626	
	増減	84,204	49,320	39,626	▲ 115,393	1,158	
外来収益	H29	1,514,501	269,792	345,066	1,394,831	787,522	
	H28	1,392,586	256,171	349,296	1,527,755	749,973	
	増減	121,915	13,621	▲ 4,230	▲ 132,924	37,549	

- 信州医療センターでは、入院・外来延患者数の増加により、入院収益・外来収益ともに大幅な増収となった。
- こころの医療センター駒ヶ根では、入院延患者数の増加により、入院収益が増収となった。外来延患者数は前年度並みであったが、1人1日あたりの診療単価の上昇により外来収益が増収となった。
- 阿南病院では、入院患者数の増加により、入院収益が増収となった。
- 木曾病院では、入院・外来延患者数の減少により、入院収益・外来収益とも大幅な減収となった。
- こども病院では、外来患者数の増加により外来収益が増収となった。

エ 昨年度指摘された課題への取組

課題	課題への取組と県の評価
<p>経営基盤の強化に向けて、本部事務局においては、法人全体の運営や各病院の経営支援を的確に行えるよう機能を強化し、各病院の自立的な経営支援に取り組んでいただきたい。各病院においては、収益を確保し、費用を削減するための経営改善の取組を積極的に推進するとともに、月次決算を踏まえた経営分析や、他の医療機関との比較等も行い、機動的かつ戦略的な運営を行っていただきたい。</p>	<p>【課題への取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 信州医療センター <ul style="list-style-type: none"> ・ 経営企画室会議において、病院内外の情勢について客観的データをもとに調査分析し、病院経営の課題について審議立案し院長に提言を行った ・ 毎月の運営会議で運営動向(病床利用率、経営指標の推移等)及び経営状況の分析・把握を行っているほか、医薬品や診療材料、医療機器等の購入に際して、全国自治体病院協議会のベンチマークデータを活用して費用削減に努めている ○ こころの医療センター駒ヶ根 <ul style="list-style-type: none"> ・ 毎月開催している病院運営会議のほか、経営状況の説明会を開催し、経営状態について職員に周知をした診療情報管理士が中心となって、病院経営上必要な診療実績に関するデータの収集及び分析を行い、院内に積極的に情報発信を行った ・ 全国公立精神科病院の経営状況をベンチマーク分析し、経営改善の参考とした ○ 阿南病院 <ul style="list-style-type: none"> ・ 月1回行っている運営会議において、経営状況表の分析報告を行い経営状態について職員に周知を行った ○ 木曽病院 <ul style="list-style-type: none"> ・ 月2回の運営委員会において、毎月の病床利用率や入院単価などの診療実績を検証し、経営状況の分析・把握を行った ・ 「経営改善ニュース」を発行し、経営状況を分かりやすく職員に伝え、各部署の経営改善の取組を紹介し院内の気運の上昇を図った ○ こども病院 <ul style="list-style-type: none"> ・ 経営改善プログラムを着実に実行し経常損益の黒字を確保した ・ 本部主催の経費削減会議にて情報交換するとともに他病院と連携し経費削減に取り組んだ ○ 本部事務局人事課 <ul style="list-style-type: none"> ・ 病院の経営改善及び医療制度改革や働き方改革への取組強化を図るため、本部事務局に改革医療統括監(理事)及び改革担当と経営戦略担当の次長の配置に向けて見直しを図った ・ 本部事務局職員について幹部(課長以上)と一般職員から成る各病院担当を定め、病院の経営支援に係る連携体制の強化を図った ○ 本部事務局経営管理課 <ul style="list-style-type: none"> ・ 本部主催により経費削減のための事務連絡会議を開催し、信州大学医学部付属病院や長野市民病院と連携した物品の購入について具体化させるなど、積極的な経営支援を実施するための検討を引き続き行う ・ 各病院においては、理事会において月次決算を報告するとともに、それを踏まえて経営改善の取組を実施している <p>【県の評価】 本部事務局、各病院において、経営基盤の強化に向けた様々な取組を積極的に行ったことが認められた。</p>

<p>職員の病院経営への参画意識を醸成し、自発的な経営改善や業務の効率化の取組を推進していただきたい。</p>	<p>【課題への取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 信州医療センター <ul style="list-style-type: none"> ・ 毎月の全体朝礼や運営会議を通じて、院長から職員に向けて経営状況及び病院の課題等の説明を行い、収益確保及び費用削減へ向けた取組の実施を指示した ・ 損益分岐点となる病床利用率に対する現在の利用率を毎週各部署に掲示することで、利用率向上への意識付けを行った ・ 院内全部署に職員提案を募集し、収益の改善や費用削減の効果が見込まれる提案について経営企画室会議等で検討を加えて経営改善プログラムを策定した ○ こころの医療センター駒ヶ根 <ul style="list-style-type: none"> ・ 経営改善プログラムの策定にあわせ、全職員から経営改善職員提案の募集を行い、収益の改善等の効果が見込まれるものについて、実施に向けた準備を行った ・ 提案及び評価結果を各セクションに配布し、アイデアの共有と業務改善への活用を図った ○ 阿南病院 <ul style="list-style-type: none"> ・ 管理職との意見交換会の場において、経営改善をテーマに話し合うことで、職員自ら行うことができる業務改善に取り組むよう推進していくこととした ○ 木曽病院 <ul style="list-style-type: none"> ・ 経営改善院内キャラバンを行い、28年度の赤字決算の状況について情報を共有するとともに、各部署から経営改善案の提案を募ることで、職員の病院経営への参画意識の醸成を図った ○ こども病院 <ul style="list-style-type: none"> ・ 各部署が提案した経営改善プログラムを実行することにより、職員自ら改善に取り組む意識が向上した ○ 本部事務局人事課 <ul style="list-style-type: none"> ・ 28年度から29年度にかけて病院単位で魅力再発見・組織発展プロジェクトを実施 ・ 病院ごとにプロジェクトメンバーによるワークショップを重ね、魅力の抽出や目指す将来像、重点課題と対策についてレポートをとりまとめ、院内で発表した ・ 今後はプロジェクトのフォローもしながらレポートを活かし、病院経営の改善や組織力の向上に向けた取組を実践するとともに、中長期ビジョンの策定に向けて取り組む <p>【県の評価】</p> <p>各病院において職員の病院経営への参画意識を醸成するための取組が積極的に行われたことは評価したい。今後は、引き続き病院機構の役職員が一丸となって経営改善や業務の効率化を推進してもらいたい。</p>
---	--

<p>病院ごとの経営改善計画を早急に策定し、取り組んでいただくとともに、平成30年度年度計画に具体的な取組として位置付けていただきたい。なお、経営改善計画の策定にあたっては、平成29年度下半期中に取り組む事項、平成30年度から取り組む事項、第2期中期目標期間中に取り組む事項を明確に示すとともに、総務省が定める「新公立病院改革ガイドライン」の中で示している「経営指標に係る数値目標の設定」を参考に、病院ごとに数値目標を設定することとし、平成29年度の業務実績に結果が反映できるよう取り組んでいただきたい。</p>	<p>【取組の内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 本部事務局経営管理課 <ul style="list-style-type: none"> ・ 平成29年度下半期から取り組んでいる「経営改善プログラム(～H31年度)」の着実な実行を図る ・ 業務実績報告書に関し具体的な数値目標を盛り込めるよう、年度計画の策定にあたり、可能な限り数値目標の設定に心掛けたところである ・ 平成29年度下半期の具体的な取組状況は、以下のとおり (信州)ベッドコントロール・血液透析の増・光熱水費の削減:117.6百万円 (駒ヶ根)3か月以内再入院患者の縮減・人件費削減:58.3百万円 (阿南)ST確保に伴う収益増・休日出勤の代休取得促進・計画修繕の見送り:7.7百万円 (木曾)地域包括ケア病棟開始・白内障手術患者の入院促進:4.8百万円 (こども)PICU4床増床・後発医薬品への切替え:31.2百万円 <p>【県の評価】 経営改善プログラムを作成し、平成29年度下半期から取組を始め、一部の取組について成果が現れたことが認められた。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ○ こころの医療センター駒ヶ根 医業収益に対する職員給与費の比率について、医療観察法病棟・スーパー救急病棟・A2病棟の状況が示されたことから、引き続き、全部門の職員配置と職員給与費比率の状況について“見える化”を進めるとともに、職員給与費比率の低減に取り組んでいただきたい。 	<p>【取組の内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 職員を対象とした年度計画説明会や経営状況勉強会を開催し、給与費の推移や今後の見通しについて説明をした ・ ワークライフバランスを推進するために、会議及び委員会等の回数及び時間を見直し、勤務時間外の開催を縮減した ・ 祝日出勤日の代休取得も促進したところ、手当の削減につながった <p>【県の評価】 職員給与費率の低減に向け、職員とともに勉強会を開催し、取り組んだことが認められた。</p>

オ 今後に向けた課題

- 平成29年度に作成し取組を始めている経営改善プログラムについて、引き続き病院機構の役職員が一丸となって取組を進めるとともに、進捗を管理し、成果と課題を分析することで、より実効性の高いプログラムとしてもらいたい。
- 職員の経営分析力を一層高めることで、財務内容の改善を図ってもらいたい。
- 経営改善や医療制度・働き方改革への取組強化に向け、本部事務局の体制強化を図ったことは評価したい。同時に本部経費が不採算部門の経費であることを踏まえ、本部機能が十分な効果を発揮できるように取り組んでももらいたい。
- こころの医療センター駒ヶ根においては、医業収益に対する職員給与費の比率について、前年度から大きく低下したものの、依然として100%を超えていることから、引き続き、職員給与費率の低減に向け、計画的な職員採用などに取り組んでいただきたい。

(参考) 中期計画との対比

1 経常収支 (病院機構全体)

(単位: 百万円)

科 目		平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度	累計
経常収益 (ア)	決算	23,222	23,095	23,201			69,518
	計画	23,325	23,202	23,514	23,553	23,614	117,208
医業収益	決算	16,846	16,710	16,814			50,370
	計画	16,864	16,728	17,046	17,102	17,183	84,923
うち入院収益	決算	11,962	12,005	12,064			36,031
	計画	12,107	11,960	12,251	12,307	12,380	61,005
うち外来収益	決算	4,445	4,276	4,312			13,033
	計画	4,339	4,353	4,381	4,383	4,392	21,848
その他医業収益	決算	439	429	439			1,307
	計画	418	416	414	412	411	2,071
介護老人保健施設収益	決算	373	371	375			1,119
	計画	403	403	403	403	403	2,015
その他経常収益	決算	522	534	532			1,588
	計画	579	591	585	568	549	2,872
運営費負担金収益		5,480	5,480	5,480	5,480	5,480	27,400
経常費用 (イ)	決算	23,185	23,358	23,324			69,867
	計画	22,916	22,783	22,806	23,023	22,901	114,429
医業費用	決算	21,197	21,355	21,375			63,927
	計画	20,867	20,785	20,811	21,068	20,999	104,530
うち給与費	決算	11,912	12,333	12,336			36,581
	計画	11,683	11,693	11,833	12,137	12,228	59,574
うち材料費	決算	3,898	3,749	3,688			11,335
	計画	3,634	3,633	3,690	3,695	3,703	18,355
うち減価償却費	決算	2,317	2,256	2,174			6,747
	計画	2,353	2,257	2,089	1,982	1,897	10,578
その他医業費用	決算	3,070	3,017	3,176			9,263
	計画	3,196	3,201	3,200	3,254	3,171	10,578
介護老人保健施設費用	決算	434	442	424			1,300
	計画	468	459	455	455	459	2,296
その他経常費用	決算	1,554	1,561	1,525			4,640
	計画	1,582	1,539	1,539	1,500	1,443	7,603
経常損益 (ア-イ)	決算	37	▲ 263	▲ 124			▲ 350
	計画	409	419	708	530	714	2,780
臨時損益 (ウ)		▲ 4	0	▲ 7			▲ 11
当期純損益 (ア-イ+ウ)		33	▲ 263	▲ 130			360

※端数処理のため、内訳と合計が一致しない箇所がある。

2 経常収支（病院等別）

（単位：千円）

区 分		平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度	累計
信州医療センター	決算	91,371	7,148	▲ 102,361			
	計画	207,060	213,273	247,375	219,246	307,747	1,194,701
こころの医療 センター駒ヶ根	決算	36,360	▲ 41,106	25,185			
	計画	40,875	50,803	95,470	11,022	▲ 32,381	165,789
阿南病院	決算	84,517	160,086	207,725			
	計画	▲ 60,197	▲ 56,644	▲ 40,077	▲ 37,005	▲ 39,656	▲ 233,579
木曾病院	決算	25,306	▲ 38,590	▲ 60,955			
	計画	310,886	311,656	328,160	288,276	285,755	1,524,733
こども病院	決算	65,573	6,382	137,152			
	計画	179,853	148,265	334,464	300,726	439,413	1,402,721
介護老人保健施設	決算	259	▲ 6,196	22,416			
	計画	▲ 2,486	10,701	16,878	19,211	18,946	63,250
看護師養成所	決算	▲ 16,680	▲ 26,031	▲ 26,838			
	計画	▲ 22,426	▲ 23,797	▲ 21,534	▲ 23,027	▲ 21,526	▲ 112,310
本部	決算	▲ 250,131	▲ 325,492	▲ 325,826			
	計画	▲ 244,461	▲ 235,415	▲ 252,517	▲ 248,357	▲ 244,571	▲ 1,225,321
計	決算	36,575	▲ 263,799	▲ 123,500			
	計画	409,104	418,842	708,219	530,092	713,727	2,779,984

※端数処理のため、内訳と合計が一致しない箇所がある。

3 資金収支

（単位：百万円）

区 分		平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度	累計
現金収入	決算	23,996	25,267	24,428			
	計画	24,492	25,961	24,479	25,228	24,514	124,675
現金支出	決算	23,907	25,690	24,774			
	計画	24,224	26,030	24,297	25,501	24,579	124,632
資金収支	決算	89	▲ 422	▲ 346			
	計画	268	▲ 69	182	▲ 273	▲ 65	42

※端数処理のため、内訳と合計が一致しない箇所がある。

4 主要経営指標

(1) 職員給与費／医業収益比率

(単位：％)

区分	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
決算	70.7	73.8	73.4		
計画	69.3	69.9	69.4	71.0	71.2

(2) 医療材料費／医業収益比率

(単位：％)

区分	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
決算	23.1	22.4	21.9		
計画	21.5	21.7	21.6	21.6	21.6

(3) 病床利用率（病院別）

(単位：％)

区 分		平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
信州医療センター	決算	82.1	76.0	79.3		
	計画	73.4	75.8	75.3	76.1	76.4
こころの医療センター駒ヶ根	決算	77.1	77.4	79.2		
	計画	79.5	79.8	81.8	81.8	82.2
阿南病院	決算	50.8	58.7	63.7		
	計画	51.5	51.5	51.5	51.5	51.5
木曽病院	決算	71.1	70.7	64.3		
	計画	85.4	85.3	84.9	84.6	84.0
こども病院	決算	76.1	76.0	74.5		
	計画	74.4	74.3	75.3	75.3	75.1

《病院別病床数内訳》

- ・信州 運用病床 226床（結核病床24、感染症病床4、地域包括ケア病棟46を除く）
- ・駒ヶ根 許可病床 129床
- ・阿南病院 許可病床 85床
- ・木曽病院 運用病床 4月から2月まで186床、3月は181床
- ・こども病院 運用病床 180床